

Youth Manna

マルコ1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2023/8/21(月)

士師記11:26-40

エフタは、「もし勝利を与えてくださるなら、私を迎えに出て来る者を全焼のささげ物として献げます(30-31)」と主に誓った。

★“誓い”と聞いてどんなことが思い浮かぶ？

・イエス様は、決して誓ってはならないと言われた(マタイ5:34)。

・北九州市のHPには、「誓いとは、自分の心と約束すること」とありました。→私達の心の中で「～しない!」「○○さんのように絶対にならない」「(逆に)必ず・・・する」といった心の動きを感じることはないだろうか？

・イエス様は、なぜ誓ってはいけないと言われるのだろう。→誓いには私達の心を縛る特級呪術のような力があることを覚えておこう。

★もしイエス様の言葉に対して「はい」「いいえ」以外の返答をしている(心の中で誓っていること)ことがあれば(マタイ5:37)悔い改めよう。

2023/8/22(火)

士師記12章

アンモン人との戦いに参加していなかったエフライム族が来て、エフタを責めた。似たような出来事がギデオンの時代にもあったね(8:1)。エフライムは自分たちこそイスラエルの中心だという自負心があったんだ。

自分の利益や立場を守るために相手を攻撃することについてどう思う？また、他人の成功を喜ばず、嫉妬してしまうことはあるだろうか？そのような心から守られるために何が必要だろうか？

神様が与えてくださる方だということをいつもへりくだって覚えよう。神様の愛の中を歩めるように祈ろう！

2023/8/23(水)

士師記13章

今日の箇所から、士師記における最後のさばきつかさ、サムソンが登場する。エフタの後イスラエルはしばらく、三人のさばきつかさによって主の前に歩んでいた。しかしその後、民は主の目に悪を行う生活に戻った。主はペリシテ人を再び用いられ、四十年間イスラエルを圧迫された。

その後、マノアの妻に御使いが現れ、身ごもって男の子を産むと告げられる。しかも生まれてくる子は神に献げられたナジル人であり、ペリシテ人からの救い手となることが預言された。マノア夫婦は、突然神からの救い主が自分達に託される現実に戸惑うしかなかったが、御使いから示されたのは、恐れずに信じ従うことだった。

主は、最も小さい者の従順を用いて、救いの計画を行われる。神様の計画のために、いつでも信仰を差し出せるよう祈ろう！

2023/8/24(木)

士師記14章

今日の箇所ではサムソンの結婚について記されている。

ナジル人として生まれたサムソンは神様の祝福のもと成長した。しかしサムソンは異邦人で敵対関係であるペリシテ人の娘と、周囲の反対を押し切り結婚する。ペリシテ人たちも自分たちの支配下である民族との結びつきをよく思わなかった。

現代の私たちの生活に置き換えるとどうだろうか？

特に日本人は宗教の違いをあまり問題視しないが、実際、日曜の礼拝を勝ち取る、献金を選び取るなど、価値観、生活に大きな違いがある。

結婚だけでなく、キリスト者として生きていく上でしっかりと踏まえて選択する必要がある。この世の価値観にとらわれず、神様のみこころを見よう！！

2023/8/25(金)

士師記15章

●“問題児”サムソンの”めっちゃめっちゃ”なエピソードをまとめてみよう。

①ジャッカルの話 4-5v

②ロバのアゴ骨の話 15v

特別な力を与えられていたサムソンだったが、その心は孤独だったね。

●神様はどんな人も用いる。ときに人間的な正しさよりももっと大事なことを神様は見ておられるのかも。君はどう用いられたのかな？

2023/8/26(土)

士師記16:1-22

サムソンは神様から与えられた力で人々を導いていたし、とても力強い存在だった。だけど、彼はそれが神様がいてくださるからだってことを忘れてしまった。サムソンは自分の思い通りに周りを動かせるのをいいことに、女の人とたくさん遊び、神様が望む姿とはほど遠い生活を始めてしまったんだ。

そしてとうとう自分の力のきっかけをデリラに教えてしまい、しかもサムソン自身は神様が離れていたことに気づかなかった。

神様と一緒に歩まないことの悲しい結果が今日の箇所からわかるね。神様が共におられること、私たち自身が神様と一緒にきよく生きることを大切にしていこう！

2023/8/27(日)

士師記16:23-31

今日の箇所ではサムソンの最期が書かれているよ。

●捕らえられたサムソンのことをペリシテ人達はどのように扱っていた？23-25v

●サムソンはどのようにしてペリシテ人達に復讐した？29-30v

君には悔い改めと神様との関係の回復が必要な部分があるだろうか？静まって神様の前に出よう。